

松山市民による松山市民のためのまちづくりフリーペーパー

まちづくり!! まつやま新聞



●発行 坂の上の雲ミュージアム指定管理者 四電ビジネス株式会社
松山市一番町3丁目20番地
089-915-2600

●編集 NPO法人地域共創研究所 NORA
(代表 石浜 典夫)
松山大学「人間関係とキャリア形成」講座受講生
坂の上の雲ミュージアム

●協力 坂の上の雲ミュージアム

●制作 セキ株式会社

●発行部数 30,000部

●付録 松山市内の市有施設(一部を除く)ほか、坂の上の雲ミュージアム、ロブウェイ駅舎、道後温泉観光案内所ほか、観光拠点で無料配布

●収録 河原町探索絵地図

■坂本屋 (逢野町様)
旧遍路宿「坂本屋」は、旧土佐街道の難所三坂峠のふもとに大正初期ごろに建てられた。

「のたべ」が開かれた。プロ造2階建の元酒蔵を改造した音楽家や、住民グループの音楽家や、住民グループの音楽家で、芝居の演奏で境内にはぎわった。夜店や舞台設備は地元住民の手作りだ。

2006年、よみがえった。今では、農村歌舞伎の披露や地元合唱団の活躍の場となっている。

とっぴおきのまちづくりレポート

里山の自然と遍路文化で

古里再生

松山中心部と高知をつなぐ旧土佐街道の要衝として栄えた松山市久谷地区。豊かな自然に囲まれた同地区は、四国八十八カ所札所を結ぶ遍路道でもある。お遍路さんが憩う場であり、旧遍路宿「坂本屋」や酒蔵をリニューアルした劇場「大黒座」を中心に、地元住民が独自のまちづくりに取り組んでいる。

久谷地区

同コースは町内外のメンバーを募集。男性歓迎。問い合わせは同コース座長の尾崎さんへ電話090(4224)1182
(金永彰太、松田祥太郎)

■ほたるの夕べ
蛍飛び交う初夏の夜。5月26日、久谷町葛掛五社神社で、恒例の祭り「ほたるの夕べ」が行われた。

■大黒座
大正時代に建てられた木の造り、大黒座は、大黒座コーラスの活躍の場となっている。



ボランティアスタッフがお遍路さんを接待する「坂本屋」



「大黒座コーラス」の活躍の場となっている大黒座



毎年、久谷町の葛掛五社神社で催される「ほたるの夕べ」



体いつぱい国際交流!

地球人たちの松山

松山の夏の風物詩「野球サンバ」。参加チームの常連のひとつ「地球人サンバチーム」は市在住外国人が中心だ。

「踊りは誰でも踊りやすい。簡単な振り付けです。踊りを通して、国籍に関係なく新たな友達づくりに繋がります」と市在住外国人や同サンバの練習を支援する「まつやま国際交流センター」が語っている。



まさづくり掲示板

イベント開催のお知らせ

- 笑つ脳には福来たる
10月20日(土)午後0時30分開場、午後1時30分開演、大黒座(久谷町54)で。医療ジャーナリストの大谷克弥氏による「長生きの知恵の講演、カンツォーネ歌手や伊予久里山コーラスらの歌、健康体操など。」
入場料: 大人500円、中学生以下300円。
- 55フレンドの仲間達
10月20日(土)14:30(星加さん)
- 木村家カフェ
10月27日(土)午後0時5分、松山市三津一丁目の木村家で。
明治時代のまなまを加えていない古民家内でカフェが楽しめる。
- 潮騒ウォーク
10月28日(日)午前9時JRR三津浜駅集合3時30分和気駅解散。
三津の町並み、「三津の渡し」、梅津寺、ターナー島などを経て、松山観光港で昼食、五十二番札所太山寺、五十三番札所明寺へとウォーキングを楽しむ。
参加費: 100円(保険代)、各自弁当持参。
- ターナー島を守る会
松山市梅津寺町高浜公民館内
089(9)652-1918(上草さん)
- 道後にきたつの路
日曜朝市湯あがり市
毎月第4日曜日午前8時、松山市道後湯之町「道後にきたつの路」で。地元産の新鮮な野菜や山菜、食品を30~40店が販売する。県特産品の真珠も並ぶ。
- 同市実行委員会
松山市道後湯之町
089(9)943-3342
- ぶらり道後の寺社語り歩き
11月10日(土)午後1時30分道後温泉駅前放生園から語り語り。道後温泉本館や道後の寺社を巡り、ふなや旅館で伊予弁による昔話を聞く。参加費: 1000円(菓子・抹茶付き)先着25名。申込方法: 往復ハガキで「〒790-0843 松山市道後町1丁目6-5 大亀昌子さん」まで
089(9)644-0654(菊池さん)
- ゆるりん歩き〜冬の鳥探し〜
11月11日(日)午後1時~3時松山総合公園で。総合公園の東の池で冬の鳥を観察する。無料。申込方法: ハガキかファックスで、参加代表者の郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号、および同行者全員の氏名(ふりがな)・年齢を連絡する。申込先: 都市環境学習センター「11月のゆるりん歩き」係 住所/〒791-8024 松山市朝日ヶ丘1丁目16633-2 FAX/(089)911-0250
- 都市環境学習センター
089(9)911-0250

坂の上の雲ミュージアム館長 松原正毅さんに聞いてみました



今年4月28日にオープンした「坂の上の雲ミュージアム」(一番町3丁目)は、松山のまち全体を「屋根のない博物館(フイーロドミュージアム)」に見立てたまちづくりの拠点施設だ。

市民参加のまちづくりの交差点として、市民活動を支援する機能の一つに挙げられているが、地元の若者や学生には今後どのような活動を期待しているのだろうか? 館長である松原正毅さんに尋ねてみた。

「松山は良いまちだが、もっと良くしていくにはどうするかを考えて、出来ることを実行してほしい。司馬遼太郎さんの作品を突き詰めていけば、人物を通じて日本における近代国家の形成を描いたもの。近代国家制度について若い人たちがなげ出されたのか、どう見立てたまちづくりの拠点を考えていくべきかというのを考え、ここで得るいろいろな情報を通じて、未来を考える出発点としてくれたら嬉しい」と語る。

ミュージアムは、館内のさまざまな坂道を登りつつ、小説「坂の上の雲」の背景である明治時代の近代国家として歩み始めた日本や、正岡子規・秋山真之の青年時代を感じ取る事が出来る。(玉井初奈)



松原正毅(まつばら・まさたけ)
社会人類学者。国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授。「遊牧の世界」(平凡社)など著書多数。第3回アジア・太平洋「特別賞」ほか受賞。1942年広島生まれ、松山育ち。

データで見る松山若者気質

松山の若者が 気になった水着



水着をテーマに大学生を中心にアンケートをとり、最近の松山の若者の傾向を調べてみました。

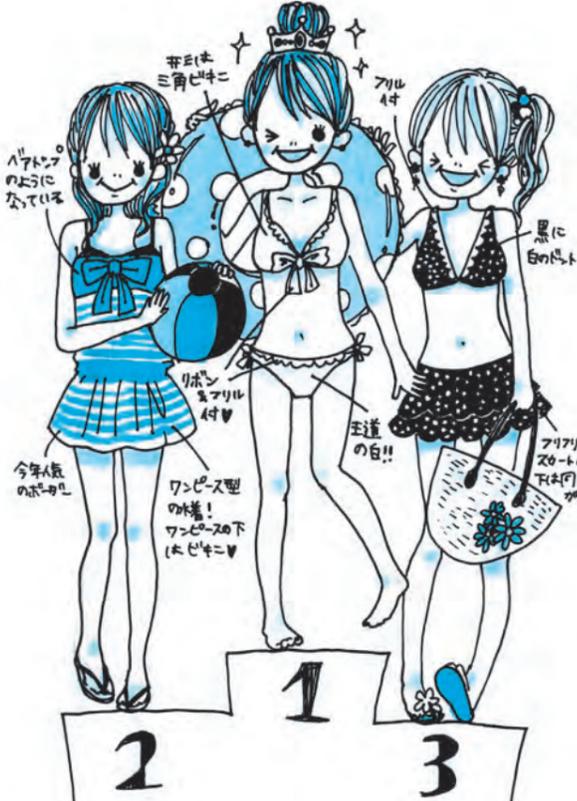
この結果を東京と比較し、「2007年夏の松山の若者が気になった水着」をランキングしました。(2007年調査)

松山の人気水着ランキング

1	白 三角ビキニ
2	ワンピースタイプ
3	フリルの水玉柄

東京の人気水着ランキング

1	白黒 三角ビキニ
2	パステルカラー ビキニ
3	チェック柄 ビキニ
4	ハイビスカス パレオ
5	ワンピースタイプ



四季折々楽しむ「子規の花通り」

河原町では、生涯にわたって花を愛し多くの作品に詠んだ正岡子規にちなみ、草花と俳句を眺めて歩けるよう、通りに花壇を並べ「子規の花通り」と名付けている。

花壇は病床にあった子規が窓から見た景色がイメージされており、まるで小さな坪庭のようだ。理事長の今井健司さんをはじめとする河原町商店街振興組合の皆さん、松山東雲短期大学



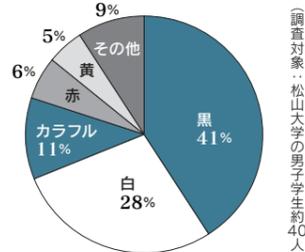
子規の花通りに21鉢並べられていた花壇

松山の女の子の選ぶ水着事情

今年、松山の若者に一番人気だったのは白の三角ビキニ。アンケートの結果、白黒のモノトーン色の水着に人気を集めていました。この結果は東京でも同じ。白は日焼けした肌に着用が映えてとてもきれいに見えるのか? 黒の水着は自分を大人っぽく演出したい女性に好評でした。

松山の女性が2番目に挙げたのは、意外にもワンピースタイプの水着!! 東京では、ビキニが上位独占しているにもかかわらずこの結果。「ビキニの上から重ね着るタイプが多く、最初はワンピース、脱ぐとビキニ★で便利」といった意見がありました。「ビキニは可愛いけど、いきなりビキニという女性はワンピースタイプを選ぶようです。柄や色など種類も豊富に出ています。」

3番手についたのは、女の子らしいフリルの付いたドット(水玉)柄のビキニ。色は赤やピンク、可愛いパステルカラーが店頭でよく売れたようです。同じ女の子らしさでも東京では今年はチェック柄が人気だったとのこと。松山でチェックを着たらひと味違って、目立てたかも。また水着の売れ行きを店頭で聞いてみたところ、柄物で不動の人気といえはボーダー!! 夏らしいマリナーなイメージは海に欠かせません。単色のものよりも、何色も組み合わせさせたラインボーダーやグラデーション色が人気だったよう。



男性が選ぶ女性に着て欲しい水着の色

歴史と自然に出会う「陶街道」を巡る

里山の風情が残る砥部町。2005年に制定された「陶街道五十三次」をご存知だろうか。砥部町の国道33号から379号沿いにある、窯元など砥部焼きに関するポイントや、文化施設、自然などの53ヶ所を訪ねるスタンプラリーだ。

38番は江戸時代の終わりころ庄屋として水車業を営んでいた「坪内家」。武家屋敷風の玄関や格式ある御成門などがあり、タイムス



坪内家の前で矢野さんと

客と役者の交流が醍醐味

東温市、坊っちゃん劇場にやってきました。西日本初の常設劇場として昨年4月に誕生した。6月8日、わらび座がロングラン公演をして「吾が輩は狸である」を観劇した。

公演が終わってホールの外へ出ると、役者と客が握手をしたり、話をしたり。こうして公演が終わった後に役者と交流できることが、同劇場へ来ることの醍醐味。舞台を2倍楽しめる演出



左から2人目が西口さん、3人目が後藤さん

遍路道マップ

道後には、温泉以外にも貴重な史跡が盛りだくさん。松山大学から51番札所石手寺まで、寄り道をしながら歩いて60分。散策後、足湯に浸れば最高の気分。

一草庵
種田山頭火(1882~1940山口県生まれ)は、全国を漂泊した自由律俳句の俳人。終の住処として過ごした地が、一草庵である。遍路の途中で立ち寄る人も多い。

道後駅前
道後商店街入り口の放生園には、からくり時計がある。毎日8:00~21:00までの間、1時間ごと(春・夏休み、年末年始は30分ごと)と8:30と12:30に、音楽と共に仕掛けが動き出す。その右手に無料の足湯がある。

大地蔵尊
湯の大地蔵、別名「火除け地蔵」とも呼ばれる。僧の行基が造ったと伝わる。約3.67mの白い大きな地蔵尊が、道後の町をひっそりと見守っている。

宝厳寺
一遍上人の生誕地。重要文化財である奇木造の一遍上人立像が安置されている。一遍上人(1239~1289)は鎌倉時代の僧で、時宗を開き、生涯旅を続けた。

石造湯釜
直径166.7cm、高さ157.6cmの円筒状で、湯口として使われた。奈良時代の作で、上部の宝珠に刻まれた「南無阿弥陀仏」の文字は一遍上人の手によるといわれている。日本最古の湯釜で、県指定有形文化財。

編集後記

感じたこと、取材したことを文章で表現するのが難しかった。(S・M)

宝厳寺の住職さんをはじめ、新しい方との出会いが楽しかったです。(A・U)

身近な場所でも、意外な見所がたくさんありました。(T・U)

これまで気付かなかった道のわきに、ステキな草花が。これからの河原町・子規の花通りが楽しみです。(A・K)

普段なかなか行けないところに行け、お遍路さんや遍路道にある坂本屋などで、いろんな交流ができて良かった。(S・K)